

## 宮農情報

詳しくはお近くの下記事業所までお問い合わせください。

東尾道宮農センター ☎0848-56-1231	浦崎支店 ☎0848-73-3311
尾道北宮農センター ☎0848-29-9611	御調支店 ☎0848-76-2242
向島宮農センター ☎0848-44-2106	甲山支店 ☎0847-25-5035
因島宮農センター ☎0845-25-6161	世羅西支店 ☎0847-37-7100
世羅宮農センター ☎0847-25-5029	

## 水稲

今年の冬は、真冬らしい厳しい寒さと、最高気温が10℃を超える暖かい日が交互に訪れ、寒暖の差が激しい天候となりました。

## 【越冬管理】

厳しい寒さが続いた日もありましたが、落ち葉の下や家屋などでカメムシが越冬できる環境も増えており、越冬量も多くなる傾向にあります。

昨年発生した圃場やその周辺圃場では、十分に注意してください。

## 【種子の休眠】

登熟期の高温の影響により、8年播種用種子において休眠が深く、発芽が遅延する可能性があります。「コシヒカリ」はこの影響を受けやすく、注意が必要です。浸種時の水温は、通常10〜15℃ですが、万一10℃を下回った場合、種子が再休眠に突入し、発芽の揃いが悪くなります。水温が10℃を下回ることのないよう注意してください。

## 【種子の充実不足】

休眠と同様に、高温下で登熟した種子が充実不足(粒張りが悪く軽い)となっている可能性があります。

それ自体が発芽に大きな影響を及ぼすわけではありませんが、塩水選の際に浮遊する種子が多くなります。

対策としては、塩水選時の塩分濃度(通常は比重1.13)を下げ、種子の必要量を確保できるよう調整してください。

## 【早い品種では、苗づくりがスタートします。】

今一度、ポイントを確認しておきましょう。

## ◆①塩水選

塩水選は、病原菌に汚染された籾や、登熟の悪い籾を取り除く作業です。

作業後は丁寧に水洗いを行い、塩分を十分に洗い流してください。

## ◆②種子消毒

農薬を使用する方法と、温湯消毒器を利用する方法があります。

農薬を使用する方法では、10℃以上の液温で24時間きつちりと浸種し、終了後は水洗いせず陰干しし、薬液を十分に種子に浸透させてください。

温湯消毒器を使用する場合は、60℃を10分間維持すること、作業後は素早く余熱をとることがポイントです。

## ◆③浸種

水温は10〜15℃とし、積算温度は1000℃(10℃で10日間)を目安に十分浸種してください。

浸種用の水はたっぷり(種子の4倍量)準備してください。

水の入れ替えは3日目までは行わず、その後、ゆっくりと入れ替えてください。種子が十分に膨れてアメ色になったら完成です。

## ◆④催芽

育苗器を利用する場合、30℃で24時間が基準です。芽を出しすぎると、播種時に芽が折れたり、互いに絡まって均一な播種ができなくなります。

水温は30℃を越えないよう注意してください。

## ◆⑤播種

床土は3kgを標準とし、均一に詰め、灌水は十分にしみ通るまでやりましょう。

床土消毒薬を1箱あたり0.5リットル散布した後、種を播き、覆土は籾が隠れる程度にします。1kgを目安としてください。

播種量は催芽籾で1箱当たり160g〜180gを基準にしましょう。

## ◆⑥緑化(出芽から1・5葉)

出芽最適温度は28〜30℃です。出芽を終えたら徐々に温度を下げ、昼夜の温度差をつけるように管理していきます。

出芽後は徐々に光を当てて十分に緑化を行います。

環境に敏感で苗質に大きく影響する段階なので、温度管理や水管理には十分な注意が必要です。

黄色の芽が緑色に変わり、第1葉の先端が見えたら次の段階へ進みます。

温度管理は、昼が20〜25℃、夜が15〜20℃が基準です。

## ◆⑦硬化(1・5葉〜田植え)

硬化開始頃は昼20〜25℃、夜10〜15℃を基準とした温度管理を行い、苗の生長とともに徐々に外気温に近づけていきます。日中は十分光に当て、苗の充実を図ります。

灌水は基本的に午前中におこないますが、乾燥しやすい場所や陽射しの強い日は補助的な灌水も必要です。育苗期間を通じて、葉はできるだけ乾いた状態で管理するようにしましょう。

苗の生長とともに徐々に外気に慣らし  
ますが、田植3〜4日前からは十分外気  
に慣らしましょう。

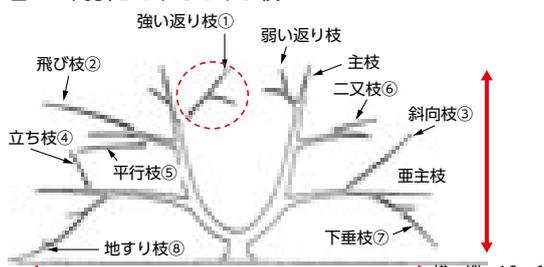
※①塩水選から⑦硬化に至るまで、温度  
について細かく設定してあります。冷  
水・寒気・高温等は生育に悪影響を及  
ぼすので、温度管理を徹底し、健苗育  
成を行いましょ。

## 柑橘

### 【剪定の順序】

- ①密植園では間伐を実施しましょう。
- ②結果母枝量の判断(花が多いか少ない  
か判断しましょう)
- ③樹の周りを1周しながら主枝を決定し  
ます。通常は三本。併せていらない枝  
の候補を決めます。
- ④樹の上部からノコを使い、いらない枝  
を間引いていきます。主枝ごとに同様  
な作業を行ってください。(間引く枝  
は先月号を参照)
- ⑤ノコ剪定が終わってからハサミで細か  
い剪定を実施します。
- ⑥一円玉以上の切り口にはカールスAも  
しくはトップジンMペーストを塗りま  
しょう。
- ⑦剪定枝は必ず園内および周辺から撤去  
しましょう。(黒点病の発生源となり

図1 間引きをするじゃま枝



剪定で一番に切る枝は①強い返り枝!  
①強い返り枝を切ると、薬剤がかかりやすくなります。

ます(細かく切った枝や、チップーで  
細断したものは園内放置可能です。  
【品種ごとのポイント】

#### ◆温州ミカン

本年度は不作の園地が多くなると予想  
されます。不作が予想される樹は、果梗  
枝の間引きを行い新梢の発生を減らしま  
しょう。

着花の有無がよくわからない方は、4  
月下旬頃の蕾が見え始めてから剪定を開  
始しましょう。



▲みかんの花が着く枝：  
結果母枝(前年発生した  
春枝)



▲果梗枝：本年新梢(来  
年の結果母枝)が発生す  
る場所

#### ◆いじじ

葉が小型化している枝は切り返し、優  
良な春芽の発生を促しましょう。

#### ◆八朔

大木は作業性が悪いので樹高を低くし  
ましょう。樹高短縮する場合は、3年く  
らいかけて徐々に短縮  
しましょう。黒点病・  
流れヤケ防止に花母枝  
を取り除きましょう。



▲流れヤケ

#### ◆はるみ

隔年結果防止目的に半樹摘果をされた  
園地では、令和7年度着果側の枝の切返  
しが重要です。鉛筆以上の枝まで切り返  
し、充実した春芽の発生を促します。令  
和8年度、果実を生らせる側は軽い間引  
き剪定を行い、花ボケを防ぐため数力所  
だけ強い切り返しを行います。

#### ◆レモン

夏秋梢は、かいつ病拡大原因になる  
ので全て除去しましょう。正品率を高め  
るため、枝数を少なくし間隔を広く取り  
ましょう。横枝を長めにとり、やわらか  
い樹作りを心がけましょう。

### 【病害虫防除】

#### ◆ハダニの防除

冬マシン油を散布してない園地では、  
高度精製マシン油乳剤80倍(4月は100  
倍を必ず散布し、ハダニの初期発生を抑  
えましょう。散布時は、発芽促進目的で

尿素300倍を混用しましょう。発芽後

散布する場合、尿素に代えて元氣一番な  
どの窒素系葉面散布剤を混用しましょう。

#### ◆カイガラムシの防除

カイガラムシ多発園では、春マシン油  
散布時にアプロードフロアブル1,000  
倍を混用散布しましょう。



▲ヤノネカイガ  
ラムシ



▲サンホーゼカ  
イガラムシ

#### ◆かいつ病防除

旬の平均温度が10℃  
を越える時期から感染  
が始まるので、時期が  
遅れないようにICポ  
ルダー66Dを散布しましょう。特にレモ  
ン・ネーブルでは必須作業です。(はるみ、  
せとか、甘夏、冬橙なども感染します)  
マシン油と2週間程度あける必要があり  
ますので計画的に散布しましょう。



▲かいつ病斑

#### ◆サビダニ・ホコリダニ

昨年度、サビダニ・ホコリダニ多発園  
では、新芽が5mm程度出たときにイオウ  
フロアブルを散布し、初期発生を抑えま  
しょう。

#### ◆クワゴマダラヒトリ(毛虫)

新芽や花を食害されるので、発生が見  
られる場合はエクシレルSEやオリオン  
水和剤で防除しましょう。



▲秋の状態  
この時に駆除しておくのも重要

## 【春肥の施用】

春肥は、春芽の充実や緑化促進など初期成育に必要な肥料です。予想収量に応じ、適量施肥を心掛けましょう。

## 【苗木の植え付け】

苗木を植栽する際は、間伐後4m×4mになるようします。八朔やレモンの様に大木になる品種は、間伐後5・5〜6mになるように植栽します。

①苗木が来たら根の土を落とし、水で洗い流して一昼夜水につけます。

②苗木は、接ぎ木部から30〜35cm(レモンは40cm)で切り返し、傷ついた根は切り、根を広げて植えます。その後、灌水します。灌水が終わると土が下がるので、再度、土をかけます。

③カラタチ部分が地表に出るように植えましょう。乾燥防止に黒ポリマルチで被覆し、支柱も立てましょう。

## 【灌水】

3月から発芽期の乾燥は、芽立ちを悪くします。また、レモンでは不完全花(子房の無い花)が増加し、着果不良になります。雨が降らない場合は、たっぷり灌水しましょう。

## 【除草】

地温の上昇と養分競合防止目的で除草を実施します。

## 落葉果樹

## 【共通の管理】

寒さが和らいでくると樹液の流動が活発になり、新根の成長も活発となります。発芽期の防除は、今後の病気発生のリスクを抑えるためにも適期に行いましょう。

## ◆休眠期防除

春先は一時的に寒波の到来があることがあります。低温障害、降雪対策をとっておきましょう。

休眠期防除がまだの場合は、発芽前に必ず行ってください。

## ◆春先の乾燥に注意

落葉果樹の根は、2月中下旬ごろより伸長を始め、養水分を吸収し、貯蔵養分の流動を促し、発芽に備えます。

この時期の灌水は、肥料の分解促進、根の伸長促進、養分吸収の促進など、果樹の初期生育を助けます。

発芽前の乾燥は、発芽の遅れや不揃いの原因になりますので乾燥が続く場合は、1回当たり20〜30mm程度の灌水をしましょう。

## ◆敷ワラ

早く敷くと地温が上がらず、萌芽が遅

れ、霜害を受けやすくなるので5月に入ってから敷くようにしましょう。

## ぼんぼん

## 【ハウス栽培(加温栽培)〜無加温栽培】

## ◆被覆〜萌芽期

萌芽まではたっぷりと灌水を行い、養分吸収がスムーズに行なわれるようにしてください。

芽が乾燥しないよう定期的に枝灌水を行い、発芽を揃えるようにしてください。

## ◆萌芽期〜ジベレリン処理前

萌芽期から1回目のジベレリン処理までは、やや乾燥気味に管理して新梢の徒長を抑制し、根の活性を高めてください。昼間の高温や夜間の低温が花穂の発達を悪くします。温度計を柵面の少し上葉の有るあたりに設置して、最高を30℃、最低は10℃を目安に管理してください。

樹勢の弱い園や、昨年の結果量が多かった園では、チッ素成分中心の液肥を定期的に散布し、初期成育を強化しましょう。

園内の枝の伸び方を見ながら新梢の整理を行い、園内が繁り過ぎないように気をつけてください。

芽かぎは、必要芽数(新梢数)・樹勢・配置を考慮しながら、生育の揃った芽を残すよう、数回に分けて行いましょう。

新梢の樹勢が強い場合は誘引を行い、先端を下げることによって花穂に流れる

養分量を増やし充実を促してください。

## ◆ジベレリン処理期

1回目のジベレリン処理後は、昼夜の温度を低めに管理し、処理後摘心を行いしっかりと灌水を行って、着粒の安定と初期肥大を図ってください。

1回目処理時には、効きを良くするため十分な湿度が必要です。乾燥時には散水を行い、湿度を上げてから処理を行ってください。逆に、2回目処理時には、薬害(ジベレリン)を防ぐため、晴天時に風通しを良くして処理し、房を振るうなどして処理液をよく落としてください。

開花期間中はやや乾燥気味に管理し、2回目のジベレリン処理後から温度を上げたたっぷり灌水を行い、果粒の初期肥大(細胞分裂)を促進してください。

開花期間中の多湿は、灰色かび病の発生を助長するので注意して管理してください。開花期間中に花穂の整形と房数の整理を行い、着荷量の調整を早めに行ってください。

## 【露地栽培(芽袋・トンネル・完全露地)】

## ◆灌水

発芽前に乾燥しないように定期的に灌水を行ってください。

## ◆芽袋

3月中旬から芽袋をかけて、展葉4〜5枚ごろには除去してください。それ以降は、新梢が徒長するだけで生育の促進

は見込めません。

霜害は、乾燥し閉め切った芽袋内の方が被害を受けやすいので注意してください。

## いちじく

### ◆圃場の改善

水はけの悪い圃場では、溝切りの実施や明渠等を設け、排水対策を行いましょ。

水はけの悪い圃場では、生育が悪くなり場合によっては樹が枯れます。

### ◆園内清掃

剪定枝や葉・残果等は、病害虫の発生源となりますので、かき集めて園外に持ち出し処分しましょう。

### ◆ケムシ

山際、雑木樹の周辺園では、ケムシによる新梢の被害に注意してください。発生した場合は殺虫剤を使用してください。園内の雑草にも寄生していますので、除草作業も併せて行ってください。

## もも

3月下旬～4月上旬は開花期です。花粉のない品種は受粉作業を行います。花粉の付きのよい品種は摘蕾・摘花をし、貯蔵用分の浪費を少なくしましょう。果実の肥大が始まってくるので、乾燥が続く場合は、灌水を行いましょ。

### ◆注意する病害虫

アブラムシ類、ケムシ類、縮葉病、せん

孔細菌病、灰星病、黒星病、果実赤点病



▲桃 アブラムシ



▲縮葉病

## 家庭菜園

除々に暖かな日が多くなり、種まき、植付けなど野菜作りが忙しくなってきましたが、上手に育てるには環境を整えることが大切です。

今月号では、畑の準備と葉根菜類の種まきについてご紹介します。

### 【春植え野菜の準備】

#### ◆土づくり

牛糞堆肥やバーク堆肥などの有機物を十分に施用し、深く耕します。有機物の働きにより、土壌中の土と空気と水のバランスが植物の生育に合うように改善されます。堆肥類は完熟のものを用いましょ。

#### ◆排水対策

降雨後に水がたまることのないよう、周囲に排水溝を設けることや、水の流入を防いだりすることが必要です。

#### ◆土壌の酸度調整

降雨や肥料の施用後、そのままにしておくと土壌は酸性に傾きます。野菜は6～6.5の弱酸性の土壌を好

むものが多く、pHを調整する必要があります。

pHの調整には石灰資材を使用します。あらかじめ植付け前に土壌診断をして施用量を決めましょ。

#### ◆元肥の施用量について

前作から土壌にどのくらい肥料分が残っているか考慮して元肥の投入量を決定しましょ。

#### ◆地温の確保

気温が低い時期に定植するには、地温をいかに高めるかが重要になります。

地温を高めて生育を促進させるために、畝や野菜の株元の土をポリエチレンフィルムなどで覆う栽培をマルチ栽培といましょ。

マルチとトンネル栽培を合わせるときに早い時期に種まきや定植ができます。早い時期の定植は、地温上昇効果が一番大きい透明マルチを使用しましょ。但し、透明マルチは雑草が生えやすい

難点があります。黒マルチは地温上昇には劣りますが、雑草が生えにくい特長があります。

#### ◆ポイント

マルチは雨上がりの後など、十分土が湿った後に被覆しましょ。

### 【葉根菜類の種まき】

お彼岸から桜咲くころにかけて、ミズナ、シュンギク、コマツナ、ホウレンソ

ウ、コカブ、ラディッシュなどの種まきができます。

#### ◆畑の準備

種まき1カ月前を目安に、1㎡当たり完熟堆肥2kg、苦土石灰100gを施用して深耕しましょ。

基肥として、野菜有機189を1㎡当たり100g施用しましょ。

#### ◆種まき

畝立て後、凹凸のないまき溝をつくり、間隔1cm程度の条まき、もしくは10～15cmの間隔で点まきをおこないましょ。

気温が低い場合は、パオパオなどのべた掛け資材を利用すると発芽や生育がよくなります。

2～3回間引きをおこないましょ。最終的な株間は、ミズナ・シュンギクは15～20cm、コカブは10cm、ホウレンソウ・コマツナ・ラディッシュは5～7cmとしましょ。

#### ◆ポイント

発芽を揃えるには、初期の水分管理が重要です。畝立て前、種まき前に十分灌水して、覆土の上にモミガラなどをまくと乾燥を防げましょ。



種土後、板などでよく鎮圧して、土壌水分が逃げないようにする